

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 21 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏名	吉羽一之
研究課題	伝達性と地域性における活字書体の評価についての考察				
研究キーワード	グラフィックデザイン、タイポグラフィ、タイプフェイスデザイン	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

2022 年度の研究計画として、活字書体の評価についてというテーマを設定し、その考察の一環として、また、経済研究所（本学）の共同プロジェクト「防災についての学際的な研究」における検証として防災啓発ツールの制作に取り組んだ。本企画で制作したものは、鎌ケ谷市の市民活動団体「鎌ケ谷マネジメントラボ」（以下、かまらぼ）と政策情報学部の戸川ゼミナールとの共同で制作した『みんなをまもるかるた』という防災かるたである。本企画のテーマやコンセプトの設定、住民へのヒアリングは、かまらぼと戸川ゼミが担当し、ヒアリングやアンケート調査の結果を精査し、絵札のイラスト案と読み札のテキストが作成された。それらの提案を元にイラスト制作及びカードのデザインを学生とともに取り組んだ。カードデザインを検討する際、いくつかのフォントメーカーから発売されているユニバーサルデザインフォントを用い、本企画への適性、可読性についてのアンケートを実施し、その結果より採用する書体を決定した。書体デザインについて、各メーカーはコンセプトやその制作過程、検証結果をウェブサイトで公表しているが、明確な検証が提示されていないものがあった。また、書体は可読性のみで選定することはできず、制作物への適性をふまえなければならない。これらの検証が本企画では不足しており、今後は検証項目の整理に立ち戻り、書体の評価の考察に取り組みたい。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【著書・論文（査読なし）】

『防災啓発ツールにおける伝達性の検証と実践—『鎌ケ谷防災かるた』制作を事例に』吉羽一之，国府台経済研究「防災についての学際的な研究」第 32 巻，第 1 号，PP.83–106，2022 年 3 月

3. 主な経費

研究及び制作のための PC、比較分析のためのフォントデータ、実践及び検証のためのソフト、及び印刷用資材の購入。その他、学会等の参加費。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

意匠学会 広報役員

（本文は 2 ページ以内にとどめること）